

飲み残した処方薬に関する調査研究

○秋山 鈴香¹, 中元 りさ¹, 世羅 綾香¹, 瀬川 慶一², 加藤 雅也³, 澤江 貴士⁴, 藤原 一雄⁵, 新佛 暢康⁶, 吉川 由希子⁷, 蔵本 恵⁸, 加藤 広毅⁹, 下田代 幹太¹⁰, 中野 有子¹¹, 村山 良太¹², 横野 史津子¹³, 島原 隆行¹⁴, 箱田 真里¹⁵, 埜 文子¹⁶, 新井 茂昭¹, 水内 義明¹ (1安田女大薬, 2エリア薬局, 3おちあい薬局, 4オリーブ薬局, 5ぎおん中央薬局, 6口田薬局, 7口田南薬局, 8蔵本薬局, 9にしはらの加藤薬局, 10びーだま薬局, 11ふかわ薬局, 12ぶどう薬局, 13緑井薬局, 14ミント薬局, 15もろき薬局, 16友愛薬局)

【目的】残薬問題が頻繁にマスコミで報じられている。適切に管理されていない薬剤が患者の手元にあることは、いつ健康被害が起きてもおかしくない状況であり、薬局における薬学的管理機能として残薬の確認及び解消が求められている。そこで、本研究では周辺地域における残薬の現状とその発生原因を明らかにし、改善策提案のための基礎資料とすることを目的として、患者に対するアンケート調査および残薬回収調査を実施した。

【方法】本調査は安田女子大学臨床研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。調査期間である2015/8/24~9/13までの3週間に、広島県安佐薬剤師会所属15薬局に処方せんを持参した患者を対象とした。アンケートは11項目である。残薬回収調査はアンケート回答者のうち同意を得られた患者を対象に実施した。

【結果】アンケート回答者355人のうち40.0%が「薬を飲み残すことがある」と回答し、そのうち「飲み残しについて医師・薬剤師などに伝えたことがある」は56.8%であった。残薬回収調査は17人の患者から同意を得られ実施した。17人のうち6人(35.3%)の患者がハイリスク薬を所持していた。

【考察】薬剤師による残薬調整にもかかわらず、患者宅には未だに多くの残薬が存在していることが明らかとなった。患者の多くは残薬があることを薬剤師に伝えていないため、薬局での投薬時の残薬確認では、確実に残薬の存在を確認することは困難である。しかしながら、残薬の中に抗血栓薬や糖尿病治療薬などのハイリスク薬が高頻度に存在しており、残薬解消の必要性を強く感じた。状況改善には、まず患者の意識向上が必要であり、薬剤師が患者に残薬の危険性についての啓蒙や広報を積極的に実施すべきであると考えられる。